



1 木場公園・東京都現代美術館



【木場公園】
東京(江戸)への材木供給を担い、「材木のまち」として栄えた木場は昭和44(1969)年、江東再開発構想の防災拠点の一つに位置づけられました。木材関連業者が新木場へ移転したのを機に、水と緑の森林公園として整備されたのがこの公園。シンボリック存在、木場公園大橋の中央部からのぞむ東京スカイツリー(建設中)は圧巻です。



【東京都現代美術館】
開館は平成7(1995)年。約4,000点に及び収蔵作品を誇る、現代美術の中核です。
現代美術の流れを展望できる常設展の他、大規模な国際展をはじめとする特色ある企画展など、絵画・彫刻・ファッション・建築・デザイン等、現代美術に関する展覧会を、幅広いテーマで開催しています。 ※有料

2 深川不動尊



正しくは、「成田山 東京別院 深川不動堂」。真言宗智山派成田山新勝寺(千葉県成田市)の、東京別院にあたります。
江戸のはじめ、成田不動に帰依し、「成田屋」を名乗った歌舞伎役者・市川團十郎が、本山で不動明王が登場する芝居を打ちました。江戸っ子たちの間で「成田山の不動明王を拝観したい」との気運が高まり、元禄16(1703)年、最初の出開帳(出張芝居)が深川で開かれたのです。これが、深川不動の起こり。時代は下って明治14(1881)年、不動堂が完成しました。
境内には「名優五代目尾上菊五郎の碑」や「力石」などがあります。

3 富岡八幡宮



東京都最大の八幡神社。建久年間に源頼朝が勧請した富岡八幡宮(神奈川県横浜市)の、直系分社です。寛永元(1624)年、当時永代島と呼ばれた小島に京の公が八幡神像を奉安したのが始まりといわれ、以来、深川っ子の信仰を集めています。
江戸三大祭の一つ、深川八幡祭りでも有名。3年に一度(8月中旬)本祭りが催され、50余台の神輿に水をかけながら練り歩く勇壮な連合渡御、あてやかな辰巳芸者の手小舞や粋な鳶若頭衆の木遣りが、江戸情緒を盛り上げます。
大相撲発祥の地としても知られ、境内には「深川力持碑」や「木場の角乗り碑」、「横綱力士碑」などがあります。

4 清澄公園・庭園



この地は元禄期の豪商・紀伊國屋文左衛門の屋敷があったと伝えられています。享保年間には下総関宿藩主・久世氏の下屋敷として栄えたものの荒廃し、明治になって三菱財閥創業者・岩崎弥太郎の手に渡りました。三菱社員らの慰安と賓客接待のための施設「深川親睦園」となったこの庭は、二代目・弥之助により、泉水に隅田川の水を引き込むなど手を加えられ、回遊式築山泉水庭園として完成をみたのです。
三代目・久弥が当時の東京市に庭園の東半分を寄贈するに至って昭和7(1932)年、「清澄庭園」の名で開園しました。
後、東京都は残る西半分の敷地を購入、昭和52(1977)年、清澄公園が追加開園したのです。 ※有料

5 深川江戸資料館



江戸時代(1842・3年頃を想定)の深川の町並みや建物内部の生活用品などを、実物大で再現・展示するとともに、当時の人々の生活ぶりも体感できる博物館。長屋や火の見櫓、船宿のたたずまいをはじめ、各家屋内に置かれた雑貨一つ一つまで、丁寧に再現されています。それらは実際に手に取って、鑑賞することも。
さらに、音響と照明効果を駆使して深川の一日を演出。夜明けから一番鶏の鳴き声、あさり売りや金魚売りの掛け合いなどが目と耳を刺激し、150年前の深川にタイムスリップしたかのよう…。
雨の音や七色の虹、夕焼け空など、自然の事象も細やかに再現され、雰囲気いっぱいです。 ※有料

6 隅田川テラス



隅田川の両岸に沿って整備された、親水テラスの総称。治水上の高水敷にあたる部分をテラス化したもので、舗装や緑化が施されたことにより、周辺の居住者や観光で訪れた人々の憩いの場・散策路として親しまれるようになりました。
治水の観点からは堤防の根固めの役割を果たすとともに、耐震性能向上にも一役買っています。
白髭橋の上流では、それまでの治水・親水空間としての役割に加え、生物の生息空間(サンクチュアリ、ワンド等)を取り入れた、新しい試みも進んでいます。最終的には隅田川のほぼ全域、総延長46.9キロメートルとなる予定。

7 横十間川親水公園



川に沿って造られた、江東区立の細長い公園。区内を流れる横十間川(よこじつげんかわ)の多くの部分を埋め立てて造成された、総延長1970メートル、総面積約50,583平方メートルに及び、大規模な親水公園です。
横十間川流域はかつて、付近にあった工場などによる地下水の汲み上げで地盤沈下が著しく、0メートル地帯となっていました。これにより川から水が溢れる危険性があったため、治水公園として整備された経緯があります。開園は昭和59(1984)年。

8 南砂路線公園

**フェンス越し、わずか1メートル。
目の前を走るディーゼル機関車に圧倒!**



JR越中島線の旧鉄道敷を公園に整備し、平成22(2010)年オープン。
この公園の一番の魅力は、オレンジ色のボディと武骨で力強いフォルムが特徴のディーゼル機関車「DE10」の迫力ある走りを、わずか1メートルという至近距離で見られるところ。
「DE10」は日曜を除く1日3往復、越中島貨物駅-新小岩操駅間、レールを横断してひた走ります。
高さ1.8メートルのフェンスが整備されているので、お子さま連れでも安心して楽しめます。